

伊方町議会第69回定例会に係る一般質問通告内容

| 質問者 | 質問の大綱 | 質問の相手 |
|--|------------------------------------|-------|
| 清家 慎太郎議員 | 1 新型コロナ感染警戒期における感染対策と社会経済活動の両立について | 町 長 |
| 質問の要旨 | | |
| <p>国にしろ、地方公共団体にしろ、行政にとっての最も重要な責務は、住民の命と暮らしを守ることをおいて他にございません。</p> <p>現在それを脅かす存在である新型コロナウイルスは2019年12月に中国武漢において第1例目が報告されて以来、概算で先月26日までで世界の累計感染者数5億2千万人、死者数628万人、国内では累計感染者数870万人、死者数3万人。愛媛県では累計感染者数3万8千人死者数139人となっており、伊方町においては5月25日時点で124人の累計感染者数となっております。</p> <p>国内感染者確認から今日に至るまでの間、社会経済活動の自粛・マスク常時着用・リモートの拡大等、発生前と比べてあらゆる状況が一変いたしました。</p> <p>並行して数々の感染対策が模索され、その効果が表れたのか愛媛県内の感染状況については、増加は一定程度に抑えられ、全国でも低い水準、特に高齢者の方々の陽性確認数は大きく減少し病床使用率も改善されているとして、4月1日からは感染警戒期として感染対策と社会経済活動を両立する期間となっております。</p> <p>その具体的な行動基準としていくつか示されており、例えば県外往来は一律の自粛は求めないが十分注意。会食では大人数・長時間を避けて認証店を推奨。県管理施設の利用時の制限緩和などが例に挙げられます。</p> <p>国においても一定の制限はございますが、6月10日より訪日外国人観光客受け入れ再開の方向が示されました。</p> <p>振り返って伊方町の状況を見ますと、5月26日現在の状況ですがほぼ毎日数人の感染者が確認され、中には後遺症に悩まされている事例もございますが、深刻な事態といえるほどの大きな増加はみられておりません。</p> <p>そのように、県と同様の比較的増加を一定程度に抑えることができている状況が続いておりますので、経済や地域活動そして地域のつながりや交流等を取り戻すため、国や県の方向性と同じように、この2年半積み上げてきた感染対策を行いつつ、社会経済活動や地域活動を両立する方向が望ましいのではないかと考えます。</p> <p>そこで質問といたしまして、町としては感染対策と社会経済活動や地域活動の両立につきましてどのような指針・方向性をお考えかお伺いいたします。</p> | | |